

個別研修（末永 美紀子）

**研修テーマ：住民たちがみずから必要な社会福祉・医療を創り出し  
多くの協力者を惹きつけているコミュニティを知る**

モンチ・アズールの子どもたちが豊かに遊べる場所さがしをきっかけに、さらに広がった先のオリゾンチ・アズールを訪ねた。

ここにはもともと農場があったが、やがてモンチ・アズール同様、保育園をつくり、学童保育やシュタイナー学校が生まれることになった。現在は2つの幼稚園と5年生までのシュタイナー学校、行政が認可している職業訓練所と学童保育および保育園があり、毎日700人の子どもたちが主体的な遊び、安全で栄養のある食事、畑仕事や木工の経験などの恩恵を受けている。

小学校や幼稚園の敷地の続きに延々と  
広がる畑。  
近所の住民にお裾分けすることもあるそう。



つい最近、ボランティアや職員の手で作られた幼稚園の建物。ピンク色の土壁はブラジルの赤い土がそのまま活かしている。



屋根付きの木工所では、暑い日も雨の日も、学校や園で必要な玩具や棚などが作られる。



休み時間の教室で、シュタイナー学校の  
1年生の担任の先生と。



オリゾンチ・アズールの全体を見守る  
校長先生と幼稚園の園舎前で。

教室の横はすぐに森と畑。自然の中でめいっぱい遊べる。サンパウロの貧しい地域の住宅街は、今でも家がひしめき合っていて遊び場がほとんどない。麻薬取引や傷害事件等があったり、壊れた車両や崩れかかった家屋なども散在している。また、ブラジルでは人工妊娠中絶が禁じられているため、結果的に1人親の子どもも多い。公立学校は半日しかないが、モンチ・アズールやオリゾンチ・アズールに来れば、安全な環境の中で遊び、学び、朝食から夕方の軽食まで全て無償で提供される。オリゾンチ・アズールの私立学校としてのシュタイナー学校では、1クラス25人程度の生徒に2人以上の教師が7時～15時までついており、学校全体で1人1人の子どもたちを見守る会議も行われている。教育と福祉が切れ目なく子どもと家族をサポートしている。



オリゾンチ・アズールでも、住み込みボランティアさんたちは欠かせない存在。  
案内してくれた日本人ボランティアさんと。背景に見えるように、オリゾンチ・アズールでは、森や畑の中に、各施設の建物が点在している。



1 年間のボランティアプログラムに来ているドイツの学生ボランティアさんたちと、ボランティアハウスにて。

**研修テーマ：医療と福祉の連携および地域での継続的・全人的な家族ケアのあり方について**

### **ブラジル サンパウロ ホメロ・シルバ医師を訪ねて**

シルバ医師は、長年、患者本人と家族に丁寧な問診を行い、カウンセリングを行うことを通じて、対症療法的な薬物治療のみならず、乗馬療法・芸術療法などを療法士とともにすすめて、慢性疾患や自閉症、うつ病などの治療にあたっている。

サンパウロ市内にある小さなカウンセリングルーム（医院ではなく、カウンセリングルームとシルバ医師は呼んでいる）を訪問。

カウンセリングルーム（診察室）：

シンプルな診察台と計測器具 美しい絵はあちこちに飾られている。





待合室：子どもの診察の時には、家族にもじっくり話を聞くが、その時には子どもがこの部屋で待てるように玩具も用意されている。



実際に、患者さんや家族と面談されるテーブルにて。

